

Ⅱ 生活や学習に関する調査の結果・分析等

分析ページの構成と見方について

1 「質問別回答結果及び教科に関する調査とのクロス集計結果の分析」について

- ◎質問項目は、「学習に対する関心・意欲・態度」「学習時間等」「学校生活」「基本的生活習慣」「家庭でのコミュニケーション」「社会に対する興味・関心」「自尊意識」「規範意識等」の8領域に分類し、分析・考察並びに提言を行った。
- ◎「生活や学習に関する調査」の質問に対する回答と「教科に関する調査」の正答率との相関を見るために、クロス集計を行った。
- ◎教科に関する調査とのクロス集計では、小学校は4教科、中学校は5教科の平均正答率を算出し、用いている。
- ◎クロス集計に関しては、必ずしも因果関係を示したものではないことに留意する。

2 「質問間におけるクロス集計結果の分析」について

- ◎「生活や学習に関する調査」における質問項目間の相関を見るために、クロス集計を行った。
- ◎「分析と考察」では、相関が顕著なものを取り上げて分析・考察した。
- ◎クロス集計に関しては、必ずしも因果関係を示したものではないことに留意する。

3 「市の施策と関連の深い18項目における4年間の調査比較」について

- ◎「市の施策と関連の深い18項目」について、平成22年度からの比較を行った。
- ◎各質問項目に対する、望ましい回答（肯定的回答）の割合で比較を行った。
- ◎「分析と考察」では、意識の表れ方に特徴があるものを取り上げて分析・考察した。

4 「市の施策と関連の深い18項目でみる、中学校2年の3年前（小学校5年時）との比較」について

- ◎「市の施策と関連の深い18項目」について、現在の中学校2年の調査結果を3年前の小学校5年時の結果と比較した。
- ◎各質問項目に対する、望ましい回答（肯定的回答）の割合で比較を行った。
- ◎「分析と考察」では、意識の表れ方に特徴があるものを取り上げて分析・考察した。

5 その他

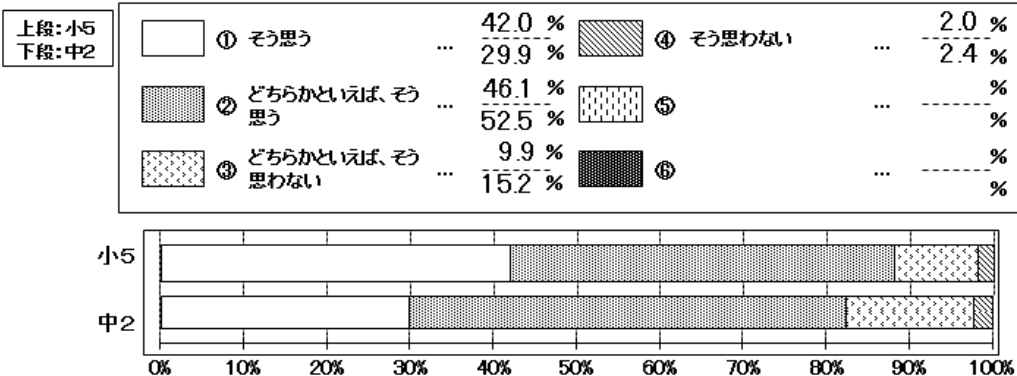
- ◎分析等では、小数第2位を四捨五入した調査結果を用いている。
- ◎調査結果は、集計の都合上、各質問における有効回答数に基づいて算出したものである。

1 質問別回答結果及び教科に関する調査とのクロス集計結果の分析

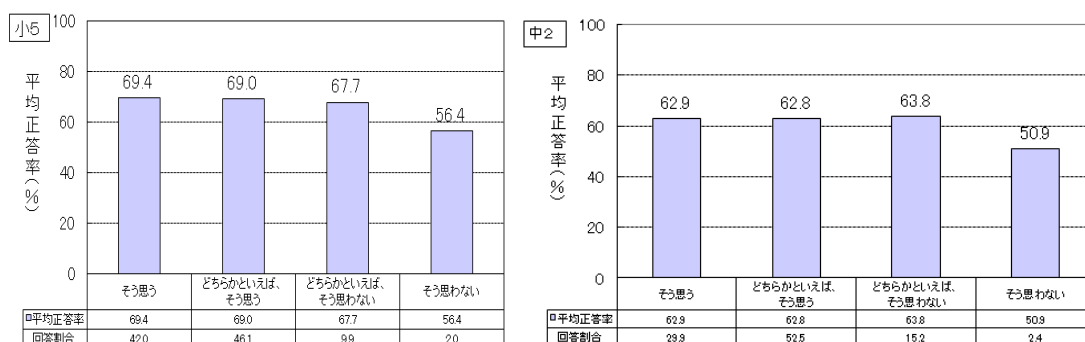
学習に対する関心・意欲・態度

【質問 6】 普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか。

回答結果

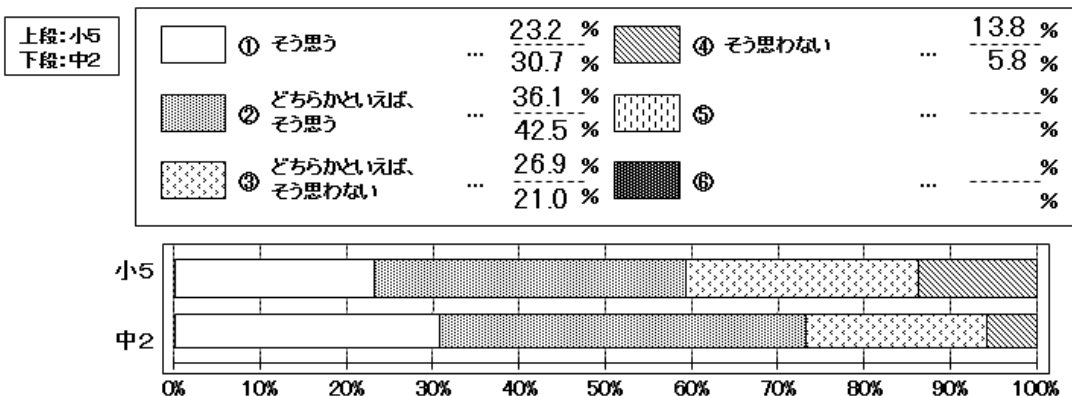


教科に関する調査との
クロス集計結果

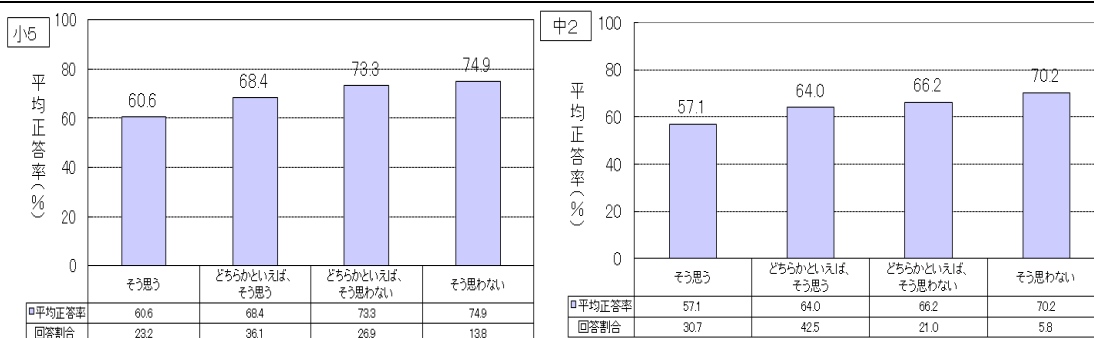


【質問 7】 学校の授業などで、自分の考えをほかの人に説明したり、文章に書いたりするのは難しいですか。

回答結果



教科に関する調査との
クロス集計結果



分析と考察

- 【質問 6】「普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか」という質問に対して、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小5で88.1%、中2で82.4%である。昨年度と比較して大きな変化はみられず、話し合う活動に意識して参加している児童生徒が多いことが伺える。教科に関する調査とのクロス集計結果をみると、「そう思う」と回答した児童生徒の平均正答率は、「そう思わない」と回答した児童生徒に比べ、小5では13.0ポイント、中2では12.0ポイント高くなっている。話し合う活動を通して学級の友達に積極的にかかわろうとする児童生徒は、学習意欲も高く、平均正答率も高くなっているといえる。
- 【質問 7】「学校の授業などで、自分の考えをほかの人に説明したり、文章に書いたりするのは難しいですか」という質問に対して、「難しいと思わない」「どちらかといえば、難しいと思わない」と回答している児童生徒の割合は、小5で40.7%、中2で26.8%である。昨年度と比較すると、小5で2.9ポイント、中2で6.1ポイント高くなっている。教科に関する調査とのクロス集計結果をみると、「そう思わない」と回答した児童生徒の平均正答率は、「そう思う」と回答した児童生徒の平均正答率より、小5で14.3ポイント、中2で13.1ポイント高くなっており、自分の考えを表現することを難しいと思わない児童生徒は、学習に意欲的に取り組み、平均正答率も高くなっているといえる。

提 言

さいたま市が目指す子ども像を実現するために、筋道を立てて論理的に考える力や自分の考えを自分の言葉で表現する力、互いの考えを伝え合う力をより一層高めていくことが大切である。

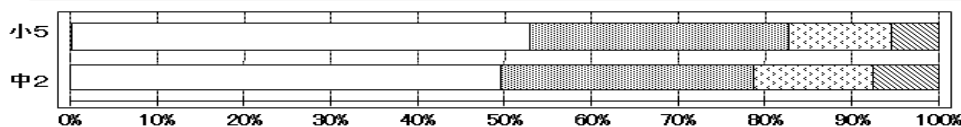
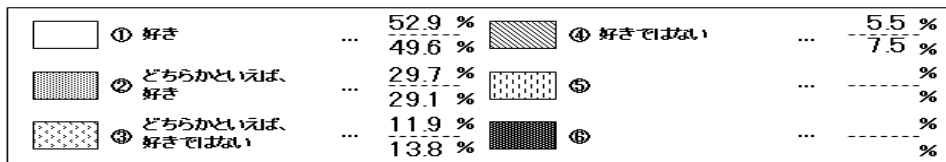
さいたま市国語力向上プログラムは、「話す・聞く」「書く」「読む」の言語活動を各教科等のねらいの達成に向けて、それぞれの学習過程に効果的に位置付けて実施するものである。各学校においては、考えを伝え合う機会を意図的・計画的に設定し、自分の言動に責任をもち、言葉や相手を大切にして自分の考えを伝え合う児童生徒を育成していく取組が大切である。

学習時間等

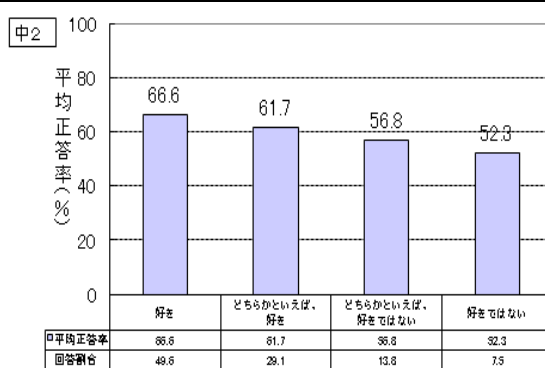
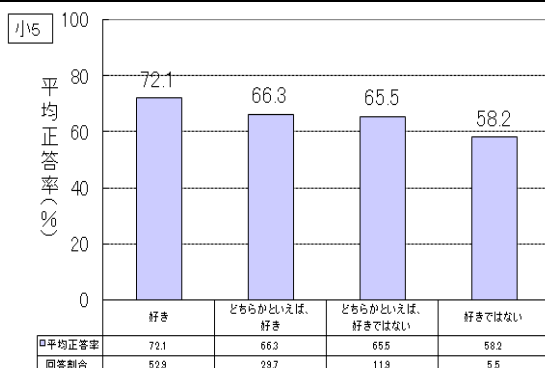
【質問 9】 読書は好きですか。

回
答
結
果

上段：小5
下段：中2



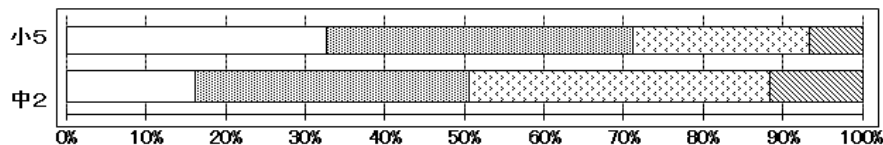
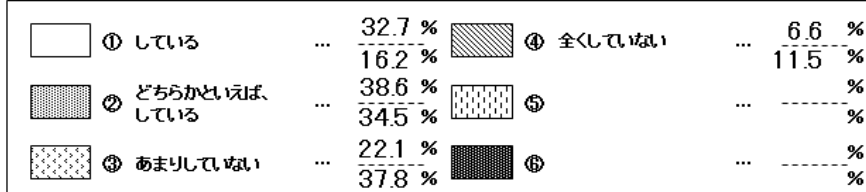
教科に関する調査との
クロス集計結果



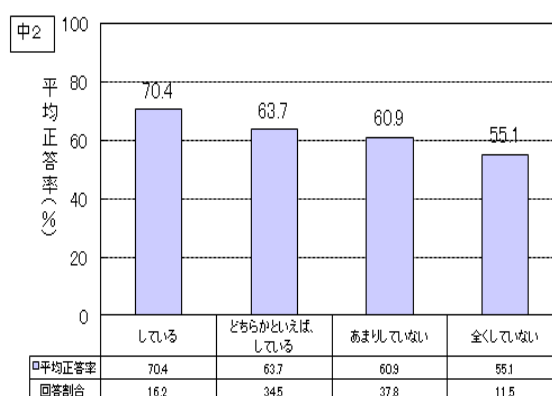
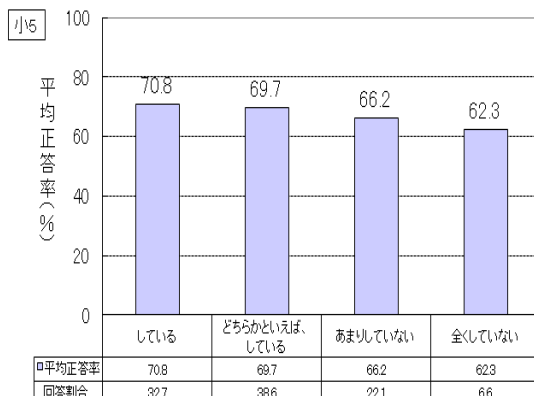
【質問30】 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。

回答結果

上段:小5
下段:中2



教科に関する調査とのクロス集計結果



分析と考察

- 【質問9】「読書は好きですか」という質問に対して、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小5で82.6%、中2で78.7%である。昨年度と比較して大きな変化はみられず、引き続き高い傾向にある。教科に関する調査とのクロス集計結果をみると、「好き」と回答した児童生徒の平均正答率は、「好きではない」と回答した児童生徒より、小5で13.9ポイント、中2で14.3ポイント高くなっている。読書により、思考力、想像力、集中力等が養われ、学力の向上に結び付いていると考えられる。
- 【質問30】「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」という質問に対して、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小5で71.3%、中2で50.7%である。この値は、昨年度と比較すると、小5では変化がみられず、中2では4.0ポイント高くなっている。教科に関する調査とのクロス集計結果をみると、「している」と回答した児童生徒の平均正答率は、「全くしていない」と回答した児童生徒より、小5で8.5ポイント、中2で15.3ポイント高くなっており、自分から計画を立てて進んで家庭学習に取り組む児童生徒ほど平均正答率が高くなっている。

提言

児童生徒の基礎学力の向上を図るためには、家庭との連携が重要である。

現在、各学校で展開している「読み・書き・そろばんプロジェクト」は、読み・書き・計算などの基礎学力の向上を図ることを目的に、学校・家庭・地域が連携して、子どもたちの望ましい生活・学習習慣の形成を目指している。

各学校においては、家庭における学びの時間を作るために、「すくすく のびのび 子どもの生活習慣向上」キャンペーン等を紹介し、「家庭学習の時間を作りましょう」「一緒に本や新聞を読みましょう」など、家庭に呼びかけている。今後も引き続き、これらの取組を学校・家庭・地域が連携・協力して行い、児童生徒の望ましい生活習慣の向上を図っていくことが大切である。

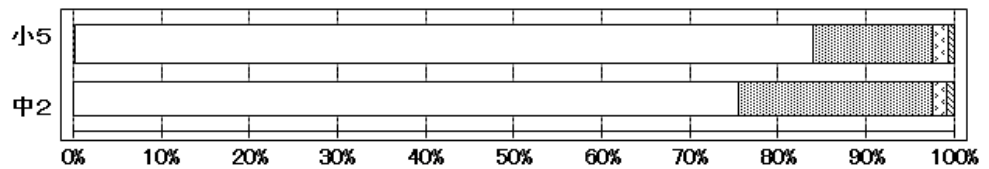
学校生活

【質問 4】 学校で友達に会うのは楽しいですか。

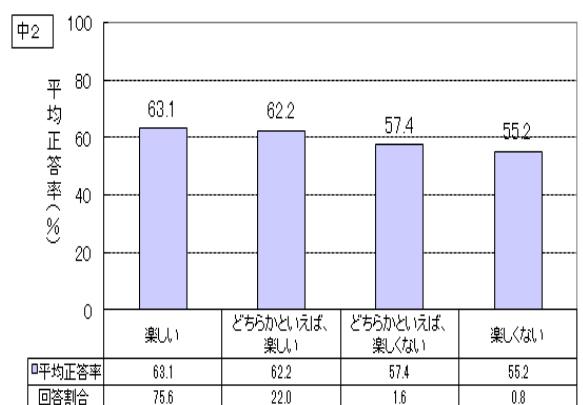
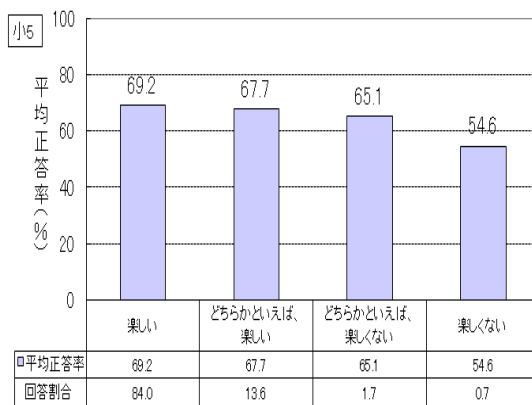
回答結果

上段:小5
下段:中2

☐ ① 楽しい	...	84.0 %	☐ ④ 楽しくない	...	0.7 %
		75.6 %			0.8 %
☐ ② どちらかといえば、楽しい	...	13.6 %	☐ ⑤	...	%
		22.0 %			%
☐ ③ どちらかといえば、楽しくない	...	1.7 %	☐ ⑥	...	%
		1.6 %			%



教科に関する調査とのクロス集計結果

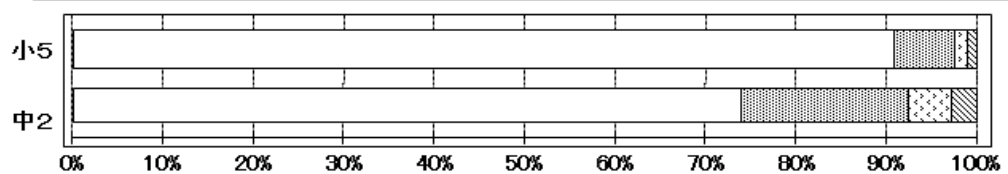


【質問 8】 学校で好きな授業や活動がありますか。

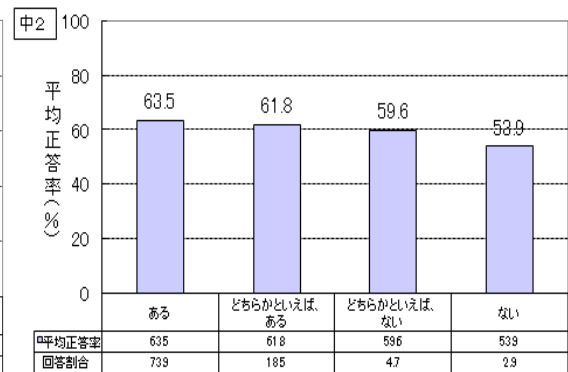
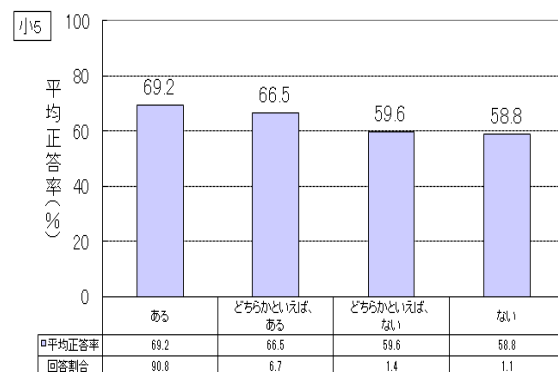
回答結果

上段:小5
下段:中2

☐ ① ある	...	90.8 %	☐ ④ ない	...	1.1 %
		73.9 %			2.9 %
☐ ② どちらかといえば、ある	...	6.7 %	☐ ⑤	...	%
		18.5 %			%
☐ ③ どちらかといえば、ない	...	1.4 %	☐ ⑥	...	%
		4.7 %			%



教科に関する調査とのクロス集計結果



分析と考察

- 【質問4】「学校で友達に会うのは楽しいですか」という質問に対して、肯定的な回答をした児童生徒は、小5で97.6%、中2で97.6%と、高い割合を示している。教科に関する調査とのクロス集計結果をみると、「楽しい」と回答した児童生徒の平均正答率は、「楽しくない」と答えた児童生徒よりも、小5で14.6ポイント、中2で7.9ポイント高くなっている。友人関係や学校生活の充実が、学習への意欲・関心を高め、平均正答率の高さにつながったと考えられる。
- 【質問8】学校生活の満足度を問うために、本年度新たに設定した質問である。「学校で好きな授業や活動がありますか」という質問に対して、肯定的な回答をした児童生徒は、小5で97.5%、中2で92.4%と、いずれも高い割合を示している。教科に関する調査とのクロス集計結果をみると、「ある」と回答した児童生徒の平均正答率は、「ない」と答えた児童生徒より、小5で10.4ポイント、中2で9.6ポイント高くなっている。興味・関心のある授業や活動があり、意欲的に取り組んでいる児童生徒は、平均正答率も高くなっているといえる。

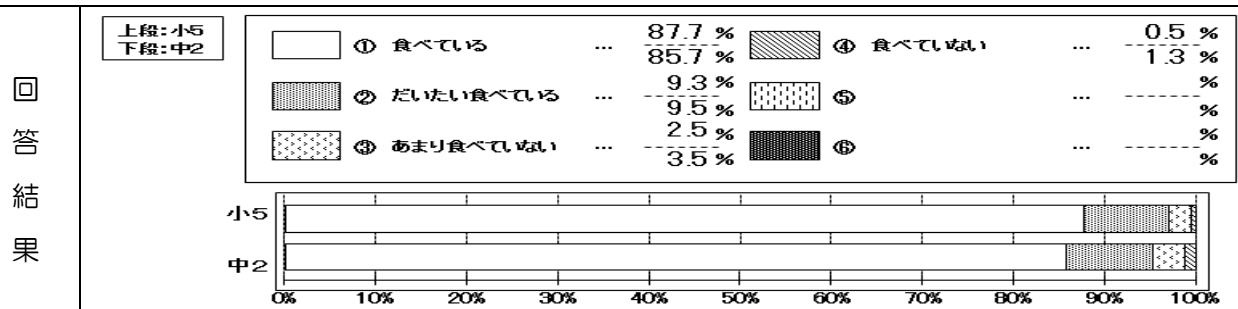
提 言

児童生徒が生き生きと学校生活を送れるようにするためには、安定した友人関係や意欲を引き出すような学習環境が大切である。学校生活について、児童生徒は高い割合で「楽しい」「どちらかといえば、楽しい」と回答しているが、各学校においては、否定的な回答をした少数の児童生徒にも配慮し、いじめや不登校の防止等に努めなければならない。

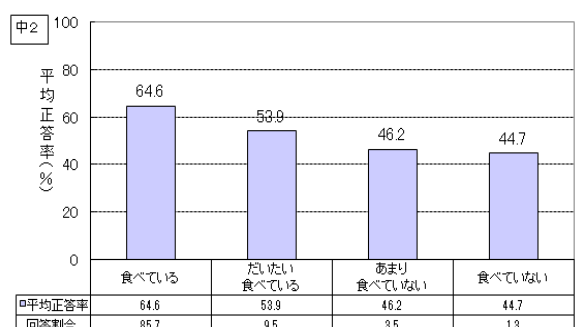
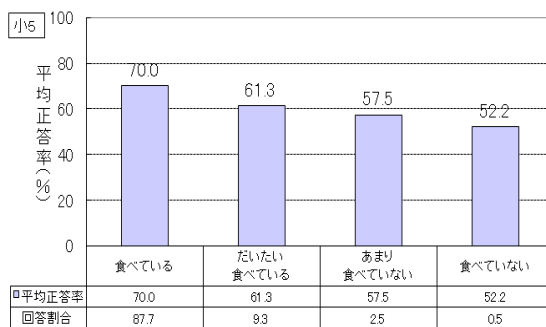
これまでも、学校では、各教科等の授業の中で友達と話し合う活動を計画的に設定し、「人間関係プログラム」の授業においてコミュニケーションの基礎を身に付けるようにしてきたが、今後も引き続き、「生きる力」と希望をはぐくむために、家庭や地域社会と一体になって推進していく必要がある。また、児童生徒が学校での活動に目標をもって意欲的に取り組めるよう、「学びの向上さいたまプラン」を推進し、教師が児童生徒の実態にあった指導内容や方法の工夫・改善を行い、一人ひとりが生き生きとした表情で主体的・創造的に学習できる授業づくりに努めることが必要である。

基本的生活習慣

【質問 1】 朝食を毎日食べていますか。



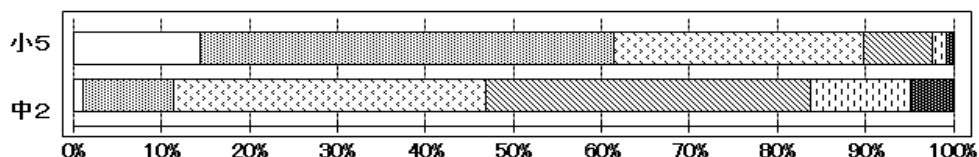
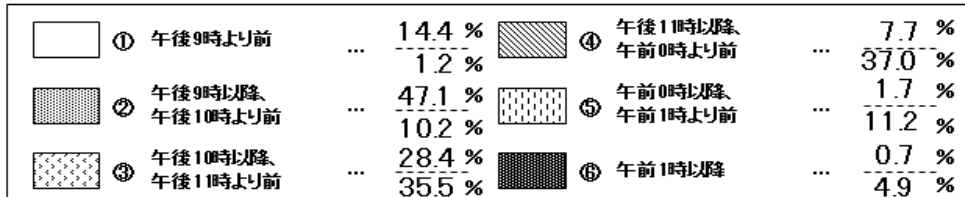
教科に関する調査とのクロス集計結果



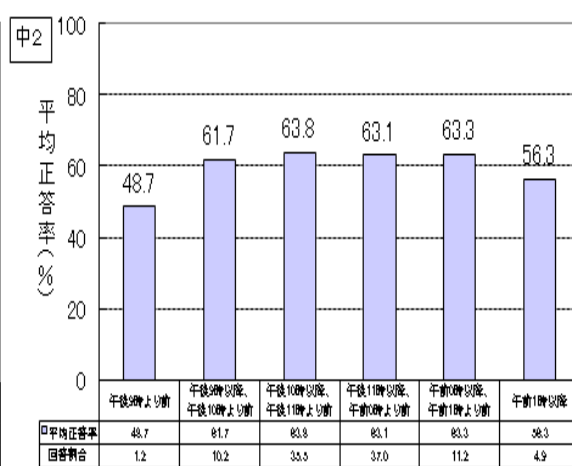
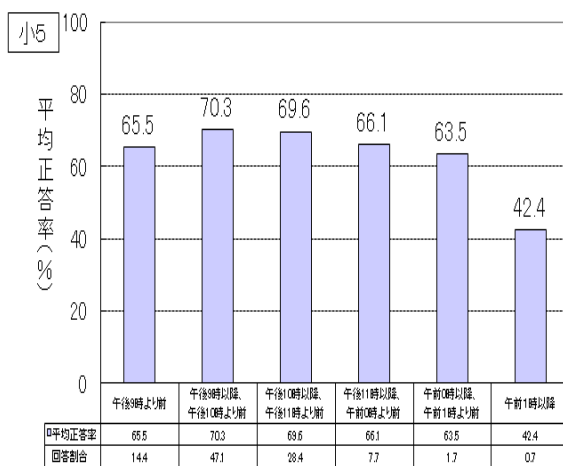
【質問34】 普段（月曜日から金曜日）、何時ごろに寝ますか。

回答結果

上段:小5
下段:中2



教科に関する調査とのクロス集計結果



分析と考察

- 【質問1】「朝食を毎日食べていますか」という質問に対して、「食べている」と回答した児童生徒は、小5で87.7%、中2で85.7%と、昨年度とほぼ同じ割合である。教科に関する調査とのクロス集計結果をみると、「食べている」と回答した児童生徒の平均正答率は、「食べていない」と回答した児童生徒より、小5で17.8ポイント、中2で19.9ポイント高くなっている。朝食を食べることが一日の生活と体のリズムを作り、学習へよい影響を与えていることが考えられる。
- 【質問34】「普段、何時ごろに寝ますか」という質問に対して、「午後9時より前」「午後9時以降、午後10時より前」「午後10時以降、午後11時より前」と回答した児童生徒は、小5は89.9%、中2は46.9%であり、昨年度とほぼ同じ割合である。教科に関する調査とのクロス集計結果をみると、「午前1時以降に寝る」と回答した児童生徒の平均正答率は、小5で42.4%、中2で56.3%と、低くなる傾向がみられる。

提言

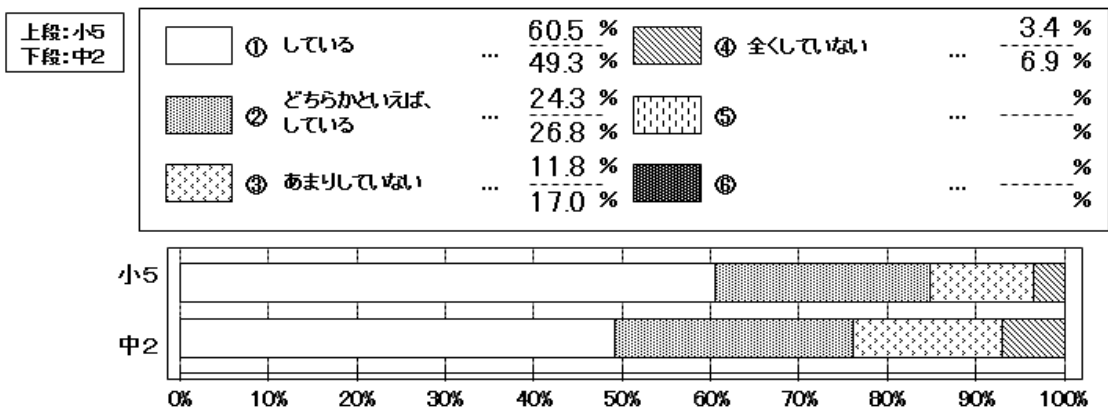
十分な睡眠時間の確保や規則正しい食事は、豊かな心と健やかな体を育成するとともに、毎日の活動への意欲に大きく影響していると考えられる。児童生徒一人ひとりが生き生きとした表情で主体的・意欲的に授業や活動に取り組めるようにするために、規則正しい生活習慣を身に付けさせることが大切である。

そのために、各学校においては「子どものための体力向上サポートプラン」や健康教育を推進し、児童生徒に必要な知識を学ばせ、望ましい生活習慣や食育について自ら考え実践できるようにする必要がある。また、家庭の協力が不可欠であることから、家庭に向けた啓発も、引き続き行っていくことが求められる。

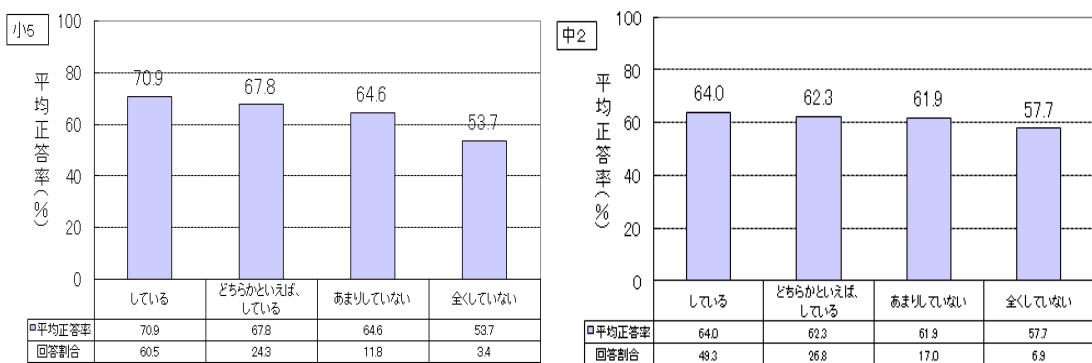
家庭でのコミュニケーション

【質問20】 家の人（兄弟姉妹は含みません。）と学校での出来事について話をしていますか。

回答結果

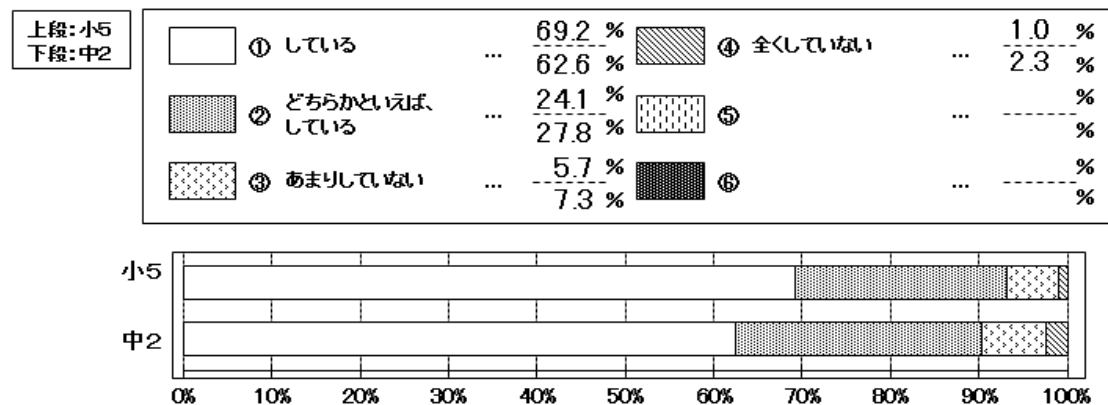


教科に関する調査との
クロス集計結果

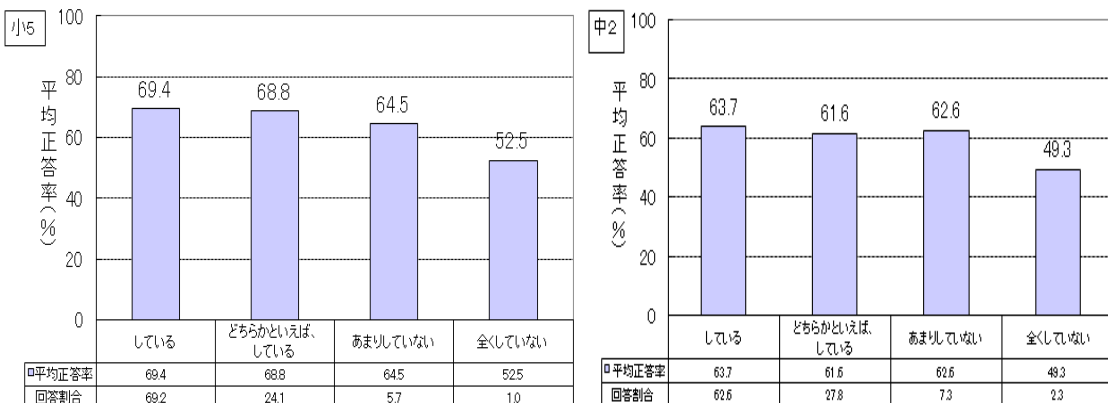


【質問26】 家族や知り合いの人に、「おはようございます」とあいさつをしていますか。

回答結果



教科に関する調査との
クロス集計結果



分析と考察

- 【質問20】「家の人と学校での出来事について話をしていますか」という質問に対して、肯定的な回答をした児童生徒は、小5が84.8%、中2が76.1%であり、ともに昨年度とほぼ同じ割合である。教科に関する調査とのクロス集計結果をみると、「している」と回答した児童生徒の平均正答率は「全くしていない」と回答した児童生徒に比べて、小5では17.2ポイント、中2では6.3ポイント高くなっている。家庭におけるコミュニケーションの充実が児童生徒に精神的な安定を与え、学習への意欲や取組を充実させていると考えられる。
- 【質問26】「家族や知り合いの人に、『おはようございます』とあいさつをしていますか」という質問に対して、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小5が93.3%、中2が90.4%である。教科に関する調査とのクロス集計結果をみると、「している」と回答した児童生徒の平均正答率は「全くしていない」と回答した児童生徒の平均正答率より、小5では16.9ポイント、中2では14.4ポイント高い。あいさつを進んで行い、好ましい人間関係を築こうと努めている児童生徒は、学習にも前向きに取り組み、学力を定着させている傾向にあると考えられる。

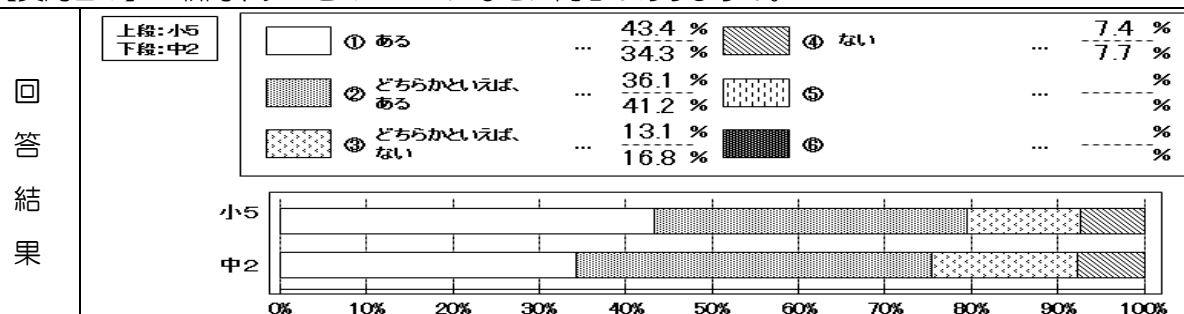
提言

人と接する際に必要なスキルを身に付け、好ましい人間関係を形成するには、学校・家庭・地域などのコミュニティの場において、ふれあいやコミュニケーションを繰り返し図ることが重要である。

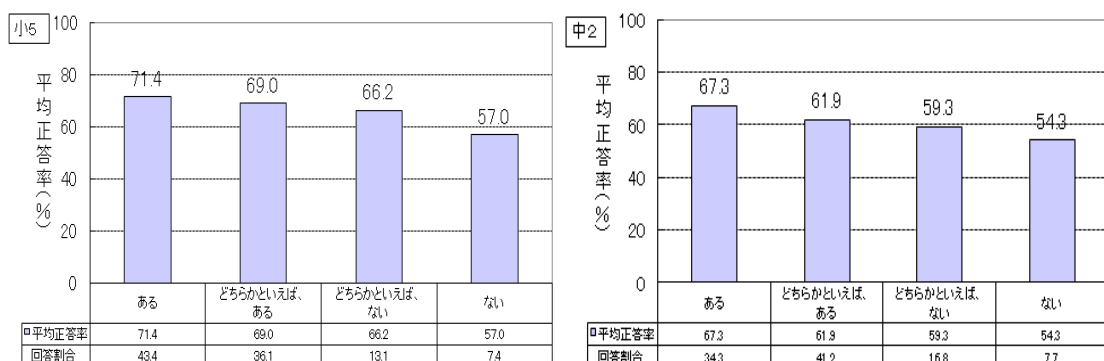
各学校においては、「人間関係プログラム」の取組を一層充実させるとともに、家庭への「すくすく のびのび 子ども生活習慣向上」キャンペーンを引き続き推進し、子どもとのコミュニケーションの大切さを周知していく必要がある。学校・家庭・地域が、それぞれの特徴を生かし、共通理解を図りながら連携して、児童生徒のコミュニケーション能力を高めていくことが求められる。

社会に対する興味・関心

【質問21】 新聞やテレビのニュースなどに関心がありますか。

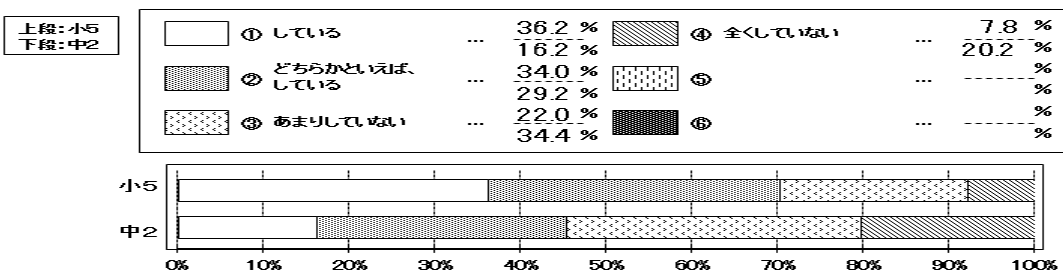


教科に関する調査とのクロス集計結果

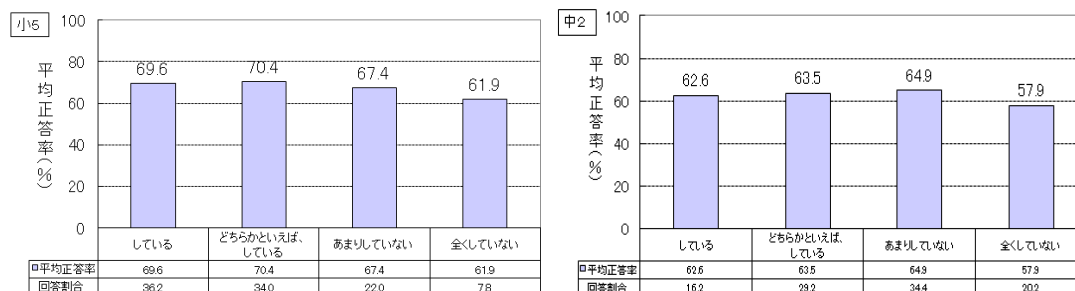


【質問24】 今住んでいる地域の行事に参加していますか。

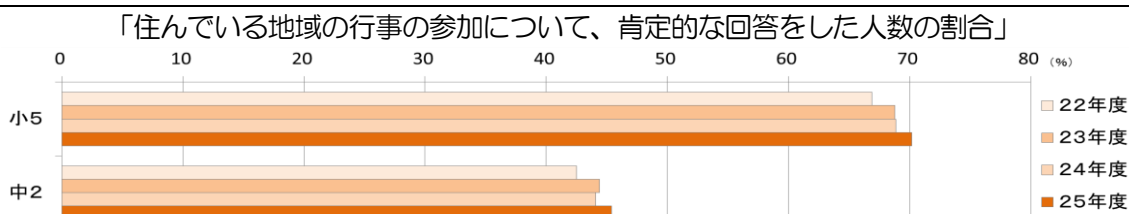
回答結果



教科に関する調査とのクロス集計結果



4年間の推移



分析と考察

- 【質問21】「新聞やテレビのニュースなどに興味がありますか」という質問に対して、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小5で79.5%、中2で75.5%であり、多くの児童生徒がニュースに関心をもっていることが伺える。教科に関する調査とのクロス集計結果をみると、関心が「ある」と回答した児童生徒の平均正答率は、「ない」と回答した児童生徒より、小5では14.4ポイント、中2では13.0ポイント高くなっており、身の回りの出来事やニュースなどに関心のある児童生徒は、平均正答率が高い傾向にあるといえる。
- 【質問24】「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問に対して、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小5で70.2%、中2で45.4%である。調査を始めた平成22年度での同項目の同回答率は、小5が66.9%、中2が42.5%であり、それぞれ小5が3.3ポイント、中2が2.9ポイント高くなっており、全体の傾向の高まりがみられる。教科に関する調査とのクロス集計結果をみると、「している」と回答した児童生徒の平均正答率は、「全くしていない」と回答した児童生徒より、小5で7.7ポイント、中2で4.7ポイント高くなっている。地域の人たちとかかわろうという意欲のある児童生徒は、平均正答率が高い傾向にあるといえる。

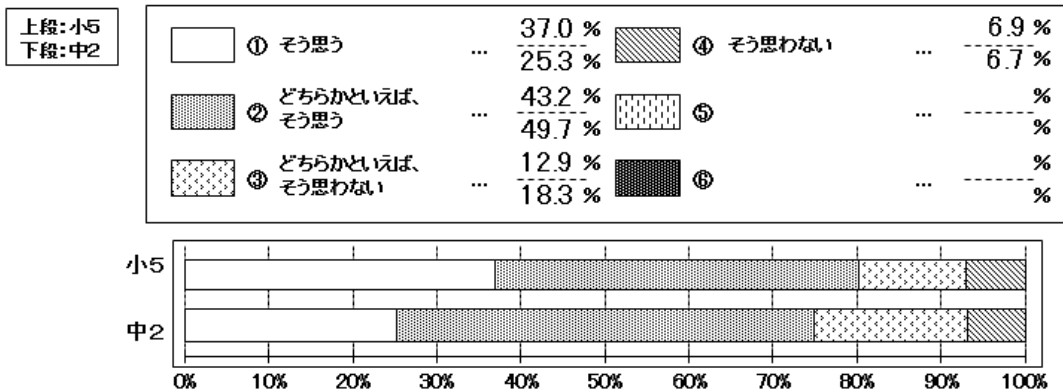
提言

コミュニケーション能力を高め、クリティカル・シンキングのできる子どもを育てるために、身の回りの出来事や新聞・テレビのニュース等に興味・関心をもたせるようにすることは大切である。各学校においては、「読み・書き・そろばんプロジェクト」の推進内容の一つである「新聞を活用した教育（NIE）の推進」を積極的に行い、新聞記事の内容について自分なりに考え表現する活動や、同じ出来事について複数の記事を読み比べる活動等、児童生徒が様々なニュースに接する機会を意図的に設定していくことが必要である。さらに、基礎学力の向上を図るためには家庭との連携が重要になるので、学校・家庭・地域が連携して、様々な取組が行き来する仕組みの構築に努めることが求められている。

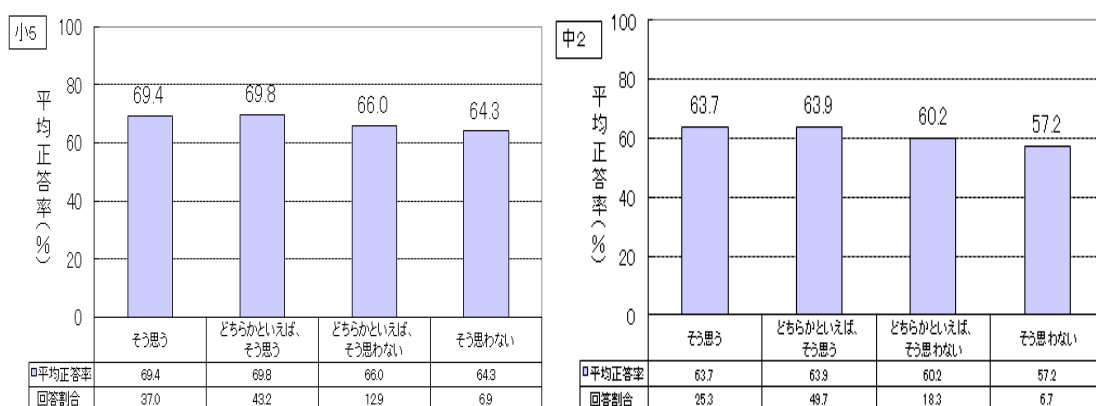
自尊意識

【質問1 2】 自分には、よいところがあると思いますか。

回答結果

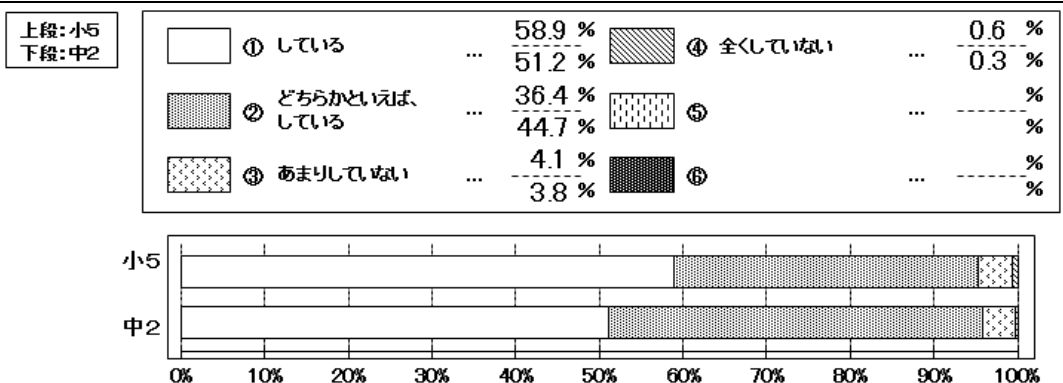


教科に関する調査との
クロス集計結果

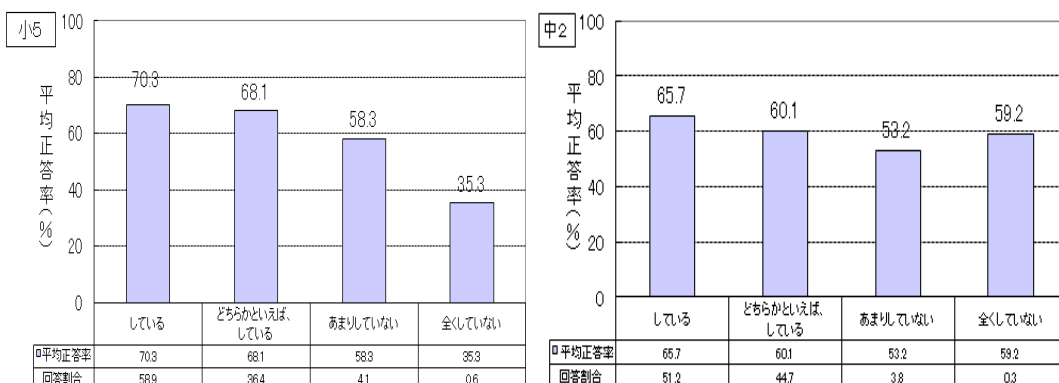


【質問1 5】 自分にまかされた仕事を最後まで取り組んでいますか。

回答結果



教科に関する調査との
クロス集計結果



分析と考察

- 【質問１２】「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対して、肯定的な回答をした児童生徒は、小５が 80.2%、中２で 75.0%であり、昨年度の結果とほぼ同じ割合である。教科に関する調査とのクロス集計結果をみると、「そう思う」と回答した児童生徒の平均正答率は、「そう思わない」と回答した児童生徒より、小５で 5.1 ポイント、中２で 6.5 ポイント高くなっている。「自分にはよいところがある」と思っている児童生徒は、学習にも意欲的に取り組んでいると考えられ、平均正答率の高さにつながったと思われる。
- 【質問１５】「自分にまかされた仕事を最後まで取り組んでいますか」という質問に対して、肯定的な回答をした児童生徒は小５で 95.3%、中２で 95.9%あり、昨年度の結果とほぼ変わらず、かなり高い割合にある。教科に関する調査とのクロス集計結果をみると、「している」と回答した児童生徒の平均正答率は、「全くしていない」と回答した児童生徒より、小５で 35.0 ポイント、中２で 6.5 ポイント高くなっている。責任感や粘り強さのある子どもは、学習にも粘り強く取り組み、学力に影響を及ぼしているものと思われる。

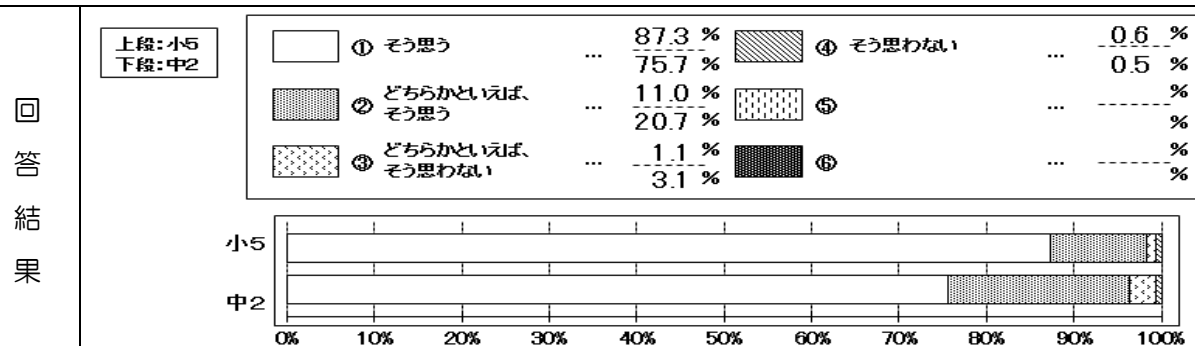
提 言

目標に向かって粘り強く取り組めるようにするためには、小さな成功体験を積み重ねていき、児童生徒一人ひとりの自尊感情を高めることが大切である。

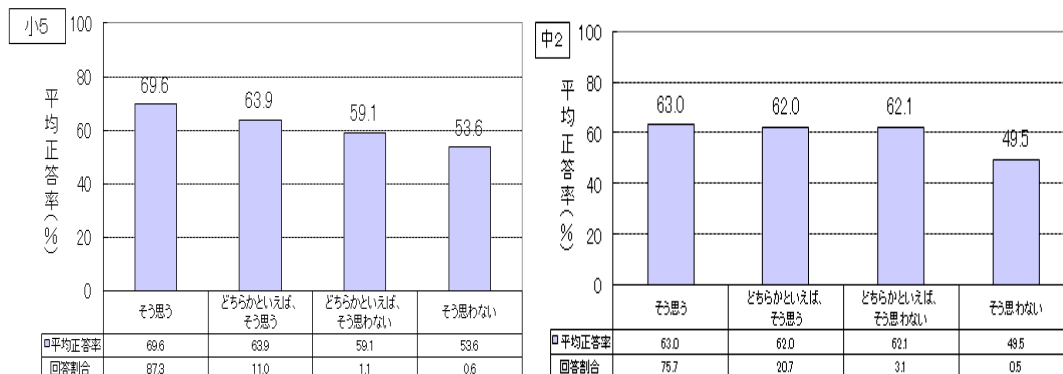
明るく前向きに学校生活を送れるような環境を作るため、児童生徒一人ひとりを生かした授業や活動に、学校全体で取り組む必要がある。また、子ども本人に対しては、よいところを認め、よさを具体的に伝えていくなど、普段からの接し方が大切である。さらに、家庭に対しても本人のよさを積極的に伝えていき、共通理解の下にそれぞれの教育力を生かした指導・援助体制を構築する。

規範意識等

【質問１８】 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

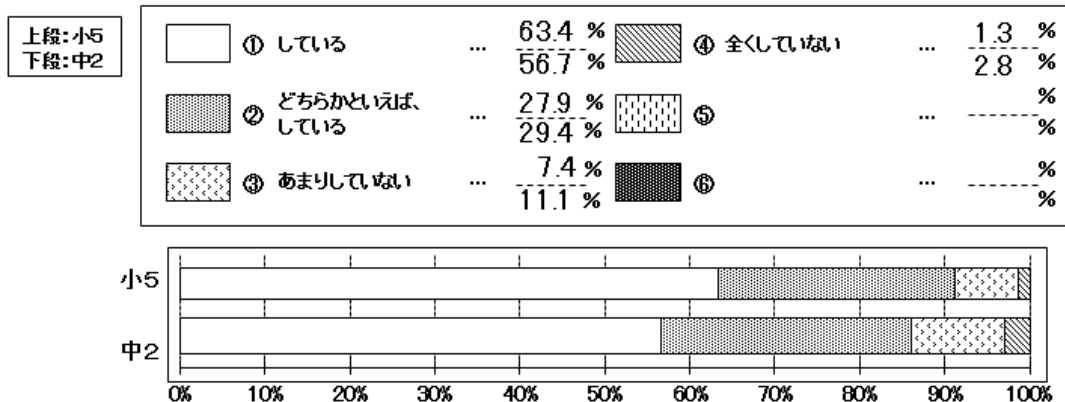


教科に関する調査とのクロス集計結果

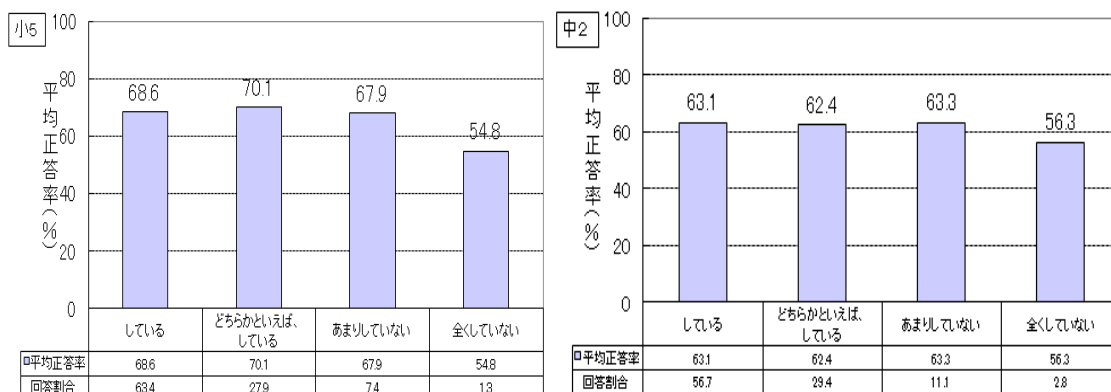


【質問 25】 近所の人に会ったときは、あいさつをしていますか。

回答結果



教科に関する調査とのクロス集計結果



分析と考察

- 【質問 18】「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に対して、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小5で 98.3%、中2で 96.4%である。昨年度とほぼ同じ割合であり、いじめを否定する意識が高いといえる。教科に関する調査とのクロス集計結果をみると、「そう思う」と回答した児童生徒の平均正答率は、「そう思わない」と回答した児童生徒よりも、小5で 16.0 ポイント、中2で 13.5 ポイント高くなっている。
- 【質問 25】「近所の人に会ったときは、あいさつをしていますか」という質問に対して、肯定的な回答をした児童生徒は、小5で 91.3%、中2で 86.1%であり、昨年度とほぼ同じ割合である。教科に関する調査とのクロス集計結果をみると、「全くしてない」と回答した児童生徒の平均正答率は他と比べて最も低く、「している」と回答した児童生徒の平均正答率よりも、小5で 13.8 ポイント、中2で 6.8 ポイント低くなっている。あいさつを通して、積極的に人とのかかわろうとする児童生徒は、学習にも意欲的に取り組み、学力に影響を及ぼしていると考えられる。

提言

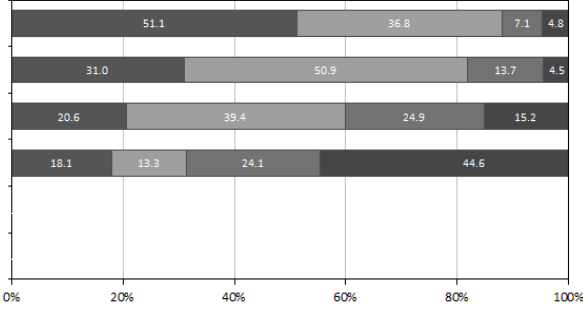
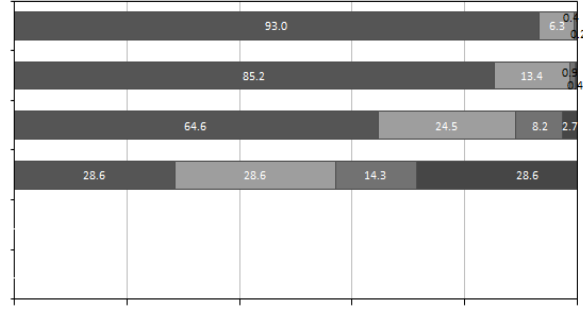
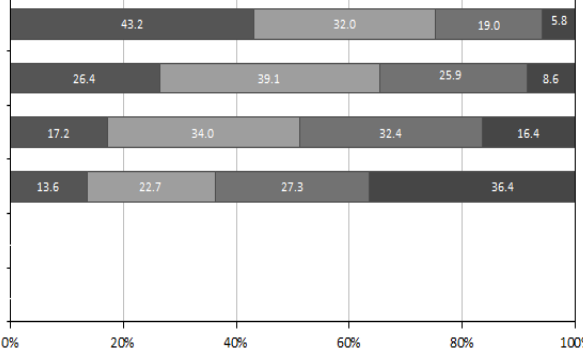
規範意識を育てるためには、自ら考え判断する力を身に付けさせ、豊かな人間関係を築けるようにすることが大切である。

各学校では、「さいたま市学習状況調査」の結果等を活用し、個に応じた指導の充実に努めているところであるが、確かな学力の向上を図るため、引き続き、毎日の授業を大切に、教育指導の工夫・改善に努めることが大切である。

また、「心を潤す4つの言葉」推進運動や「あいさつ運動」「いじめ撲滅強化月間」等の取組においては、児童会・生徒会活動を活発にさせていくなど、自分たちで規則を守っていこうとする自治意識の醸成と合わせて取り組んでいくことが効果的である。

2 質問間におけるクロス集計結果の分析

<小学校5年>

質問間におけるクロス集計結果	分析と考察
(16) 難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか。 × (12) 自分には、よいところがあると思いますか。 (12) ■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない (16) している どちらかといえば、している あまりしていない 全くしていない 	【質問16】と【質問12】のクロス集計結果をみると、難しいことにも失敗をおそれないで「挑戦している」と回答した児童の87.9%が、自分にはよいところがあるということについて肯定的に回答している。一方、「全く挑戦していない」と回答した児童の68.7%は、自分にはよいところがあるということについて否定的に回答している。 難しいことに積極的に挑戦しながら、その取組過程で自分の成長を感じたり、成功体験を収め自信を付けたりすることで、自尊感情を高めていると考えられる。
(5) 学校の規則を守っていますか。 × (18) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。 (18) ■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない (5) きちんと守っている たいてい守っている あまり守っていない 守っていない 	【質問5】と【質問18】のクロス集計結果をみると、学校の規則を「きちんと守っている」と回答した児童の93.0%が、いじめはどんな理由があってもしてはいけないということについて、「そう思う」と回答しており、「そう思わない」は0.2%であった。一方、学校の規則を「守っていない」と回答した児童のうち、いじめはどんな理由があってもしてはいけないということについて、「そう思わない」と回答した割合は、28.6%であった。 規範意識を高めることが、いじめを許さない心の育成につながっていくと考えられる。
(25) 近所の人に会ったときは、あいさつをしていますか。 × (24) 今住んでいる地域の行事に参加していますか。 (24) ■ している ■ どちらかといえば、している ■ あまりしていない ■ 全くしていない (25) している どちらかといえば、している あまりしていない 全くしていない 	【質問25】と【質問24】のクロス集計結果をみると、近所の人にあいさつをしていると回答した児童の75.2%が、地域の行事に参加しているということについて肯定的に回答している。一方、近所の人にあいさつを「全くしていない」と回答した児童では、地域の行事に参加しているということについて肯定的に回答した割合は36.3%であり、あいさつをしている児童ほど積極的に地域行事に参加している傾向がみられた。 地域行事の場における子どもから大人までの異年齢との交流が、地域住民の顔見知りを増やし、あいさつを交わせる人間関係を築いていく契機となっているのではないかと考えられる。

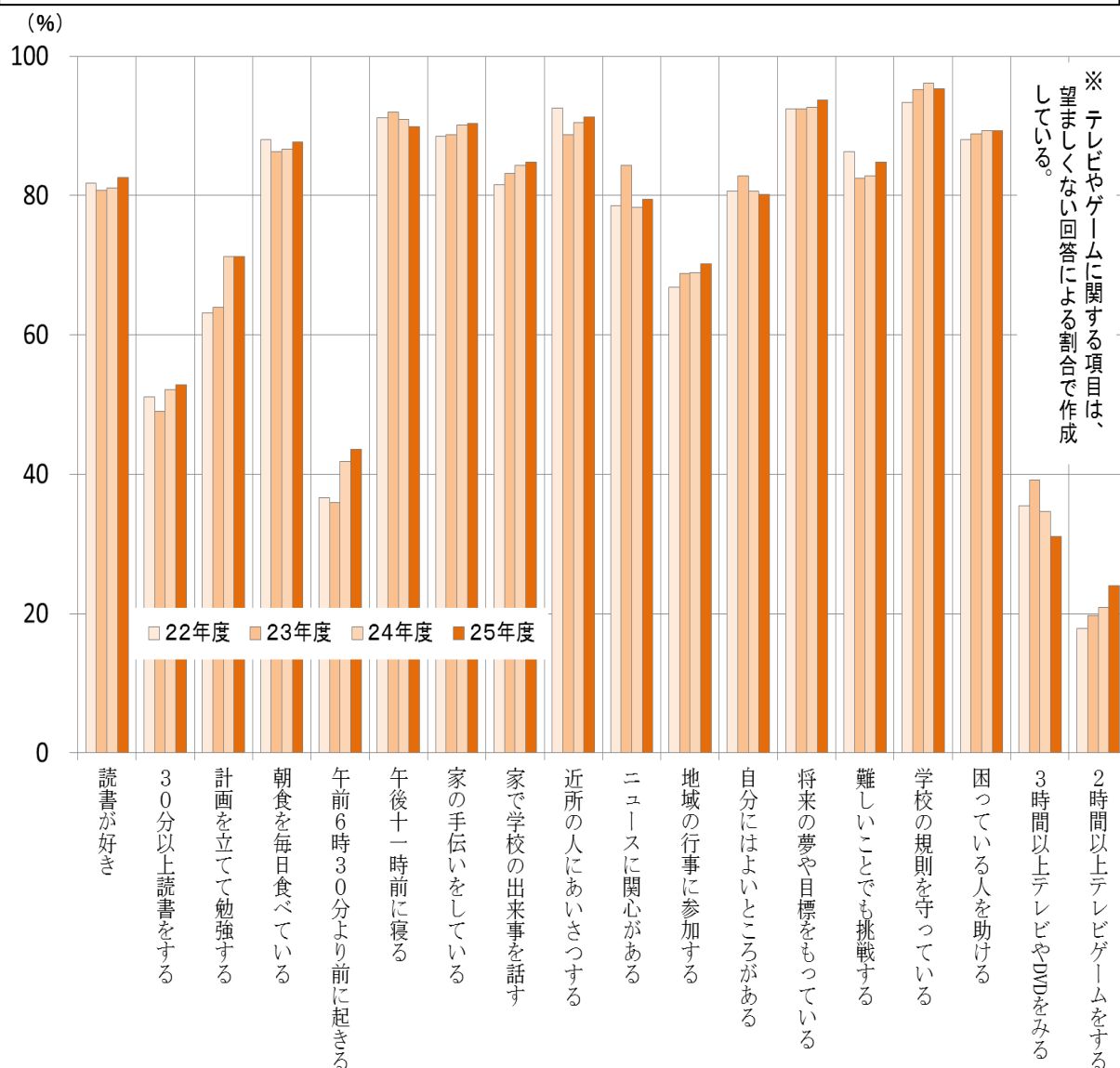
＜中学校 2 年＞

質問間におけるクロス集計結果	分析と考察
(37) 普段、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。 × (18) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。 (18) ■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない (37)	【質問37】と【質問18】のクロス集計結果をみると、1日のテレビゲームをする時間について、「全くしない」と回答した生徒の81.1%が、いじめは、どんな理由があってもいけないことだということについて「そう思う」と答えている。一方、「4時間以上」テレビゲームをしている生徒においては、65.3%であった。 テレビゲームをする生徒はテレビゲームをしない生徒より友人と関わる時間が少なくなるので、他者を思いやる気持ちが育ちにくい傾向にあるのではないかと推察される。
(13) 将来の夢や目標をもっていますか。 × (12) 自分には、よいところがあると思いますか。 (12) ■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない (13)	【質問13】と【質問12】のクロス集計結果をみると、将来の夢や目標について、「もっている」と回答した生徒のうち、自分にはよいところがあると思うかということについて肯定的に回答した割合は、82.9%である。一方、将来の夢や目標を「もっていない」と回答した生徒では、自分にはよいところがあるかということについて肯定的な回答をした割合は、45.4%であり、夢や目標を持っている生徒より、37.5ポイント下回った。 将来の夢や目標に向かって学習等に取り組む中で、自分のよさや価値に気づき、自己肯定感が高まっていくと考えられる。
(25) 近所の人に会ったときは、あいさつをしていますか。 × (17) 相手の気持ちを考えながら、話をしていますか。 (17) ■ している ■ どちらかといえば、している ■ あまりしていない ■ 全くしていない (25)	【質問25】と【質問17】とのクロス集計結果をみると、近所の人に会ったときは、あいさつをしているかということについて、「している」と回答した生徒の94.7%が、相手の気持ちを考えながら話しているかということについて肯定的な回答をしている。一方、近所の人にあいさつを「全くしていない」と回答した生徒では、相手の気持ちを考えながら話しているかということについて肯定的に回答したのは、83.7%であった。 地域の人にあいさつをする生徒は、他者とのかわりをもつ機会が多くなるので、他者を思いやり、相手の気持ちを考えながら話す傾向にあるといえる。

3 市の施策と関連の深い 18 項目における 4 年間の調査比較

<小学校 5 年>

下のグラフは、各質問項目に対し、望ましい回答（肯定的回答）をした割合で作成したものであり、テレビやゲームに関する項目は、望ましくない回答による割合で作成している。



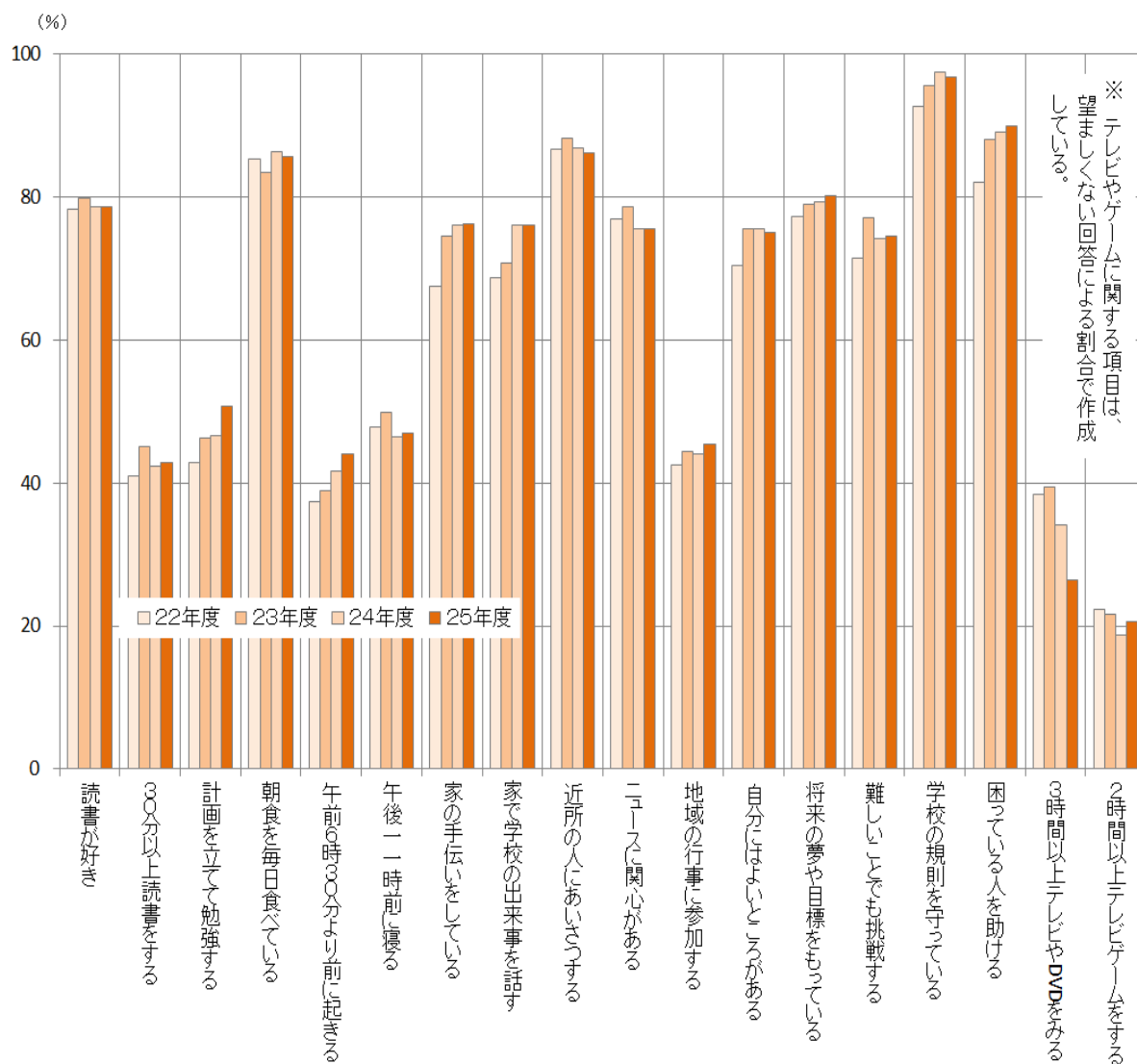
望ましい回答の割合が増加傾向にある質問項目のうち、特に変化が大きかった項目は「計画を立てて勉強する」（4年前と比べて+8.2ポイント）、「午前6時30分より前に起きる」（同+7.0ポイント）である。また、望ましい回答をした児童の割合が4年連続で90%を超えているものは、「将来の夢や目標をもっている」「午後11時前に寝る」「学校の規則を守っている」の3項目あり、自尊意識、規範意識、早寝の習慣が、高い割合で安定しているといえる。

一方、「2時間以上テレビゲームをする」という質問では、望ましい回答の割合が年々減少している（同-6.1ポイント）。このことは、「3時間以上テレビやDVDをみる」と回答した割合の減少（同-4.4ポイント）や「計画を立てて勉強する」「午前6時30分より前に起きる」と回答した割合の増加（同+8.2ポイント・同+7.0ポイント）などと合わせて考えると、時代や社会の変化とともに、小学校5年生の家庭での過ごし方も少しずつ変化してきていることの表れと推測できる。

望ましい生活習慣や学習習慣の定着を図るためには、学校・家庭・地域がそれぞれの力をさらに発揮し、互いに連携していくことが求められる。

＜中学校 2 年＞

下のグラフは、各質問項目に対し、望ましい回答（肯定的回答）をした割合で作成したものであり、テレビやゲームに関する項目は、望ましくない回答による割合で作成している。



望ましい回答の割合が増加傾向にある質問項目のうち、特に変化が大きかった項目は「3時間以上テレビやDVDをみる」(4年前と比べて-11.9ポイント)、「午前6時30分より前に起きる」(同+6.7ポイント)、「家の手伝いをしている」(同+8.8ポイント)である。

また、朝食に関する質問では、望ましい回答の割合が4年連続で85%程度あり、「『すくすく のびのび 子どもの生活習慣向上』キャンペーン」の取組等により、家庭への理解・啓発がすすめられ、その成果が表れてきていると考えられる。

そのほか、4年間安定して、高い割合で望ましい回答が得られたものとしては、「近所の人にあいさつする」(今年度86.1%)、「困っている人を助ける」(今年度90.0%)、「学校の規則を守っている」(今年度96.8%)が挙げられ、中学生の規範意識の高まりを伺うことができる。

読書に関する質問では、「30分以上読書をする」と回答した割合が4割超で安定しており(今年度42.8%)、また、「読書が好き」と回答した割合も8割近くあることから(今年度78.7%)、引き続き、落ち着いた学校生活や学習環境を作り出し、学力の向上を図っていくことが期待される。

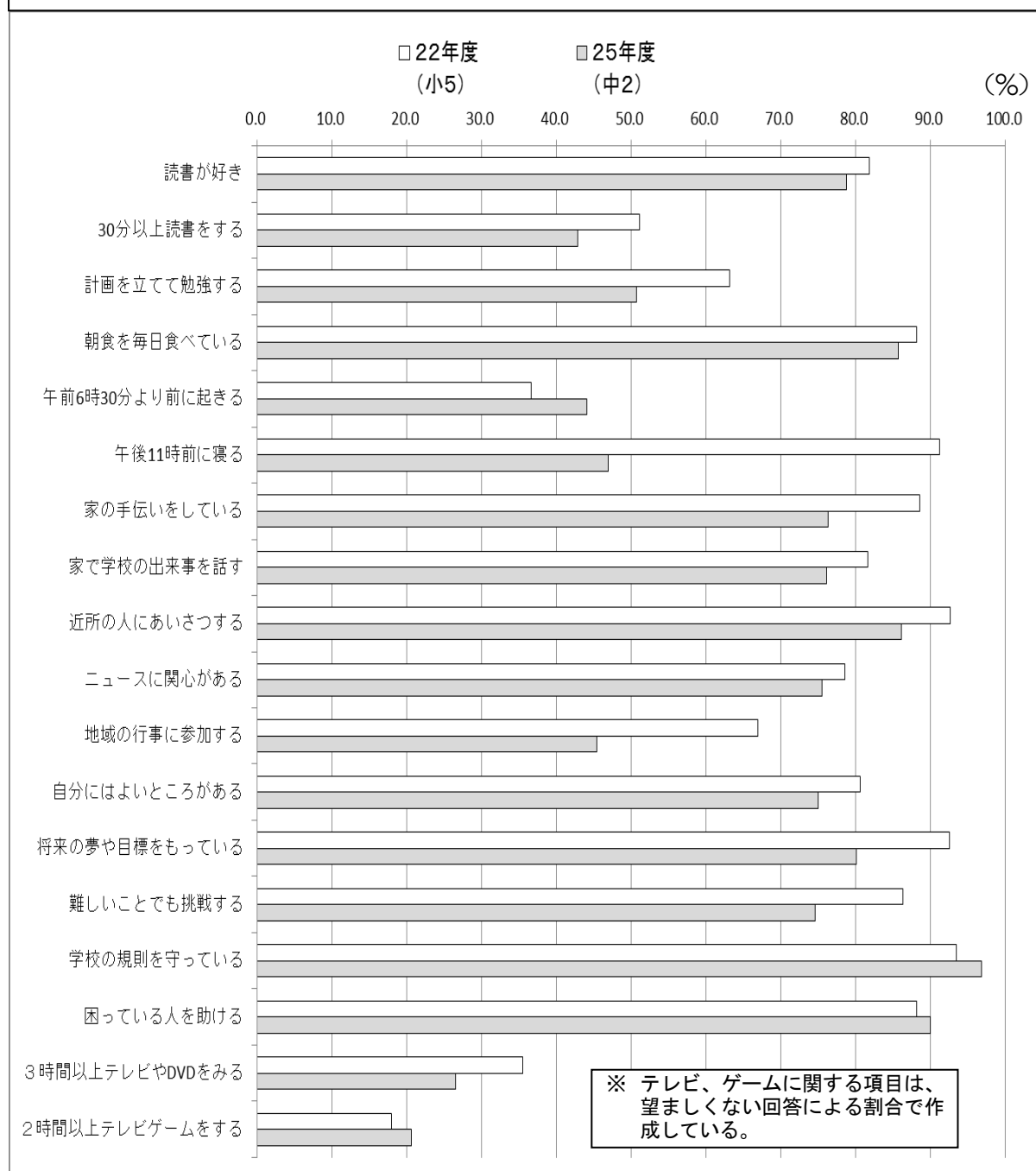
4 市の施策と関連の深い18項目でみる、中学校2年の3年前(小学校5年時)との比較

「さいたま市学習状況調査」における「生活や学習に関する調査」は平成22年度から実施し、今回で4年目を迎えた。その間、調査の内容の見直しが図られ、「生活や学習に関する調査」においても、質問項目数や質問内容の精選が行われた。

次のグラフは、本市の施策と関連の深い18項目について、今年度実施した中学校2年の調査結果と現在の中学校2年生が3年前(平成22年度)に実施した小学校5年時の調査結果とを比較したものである。

なお、この18項目においては4年間、質問文の変更はされていない。

下のグラフは、各質問項目に対し、望ましい回答(肯定的回答)をした割合で作成したものであり、テレビ、ゲームに関する項目は、望ましくない回答による割合で作成している。



【小学校生活から中学校生活へ】

今年度実施した中学校2年の調査結果と現在の中学校2年生が3年前（平成22年度）に実施した小学校5年時の調査結果とを比較して、望ましい回答の割合が特に大きく増えた質問は、「午前6時30分より前に起きる」（+7.5ポイント）「3時間以上テレビをみる」（-9.0ポイント）である。

反対に、3年前の小学校5年時と比較して、望ましい回答の割合が特に大きく減った質問は、「午後11時前に寝る」（-44.3ポイント）、「地域の行事に参加する」（-21.5ポイント）「計画を立てて勉強する」（-12.4ポイント）などである。

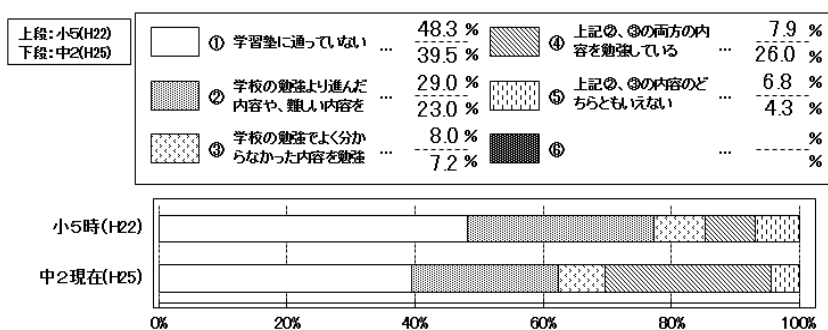
特に、「家で」「自分で」計画を立てて勉強していますか」という質問に対して、肯定的に回答する割合が減少した理由としては、中学校では部活動があるので帰宅時刻が遅くなり、学習塾等への通塾のため家庭にいる時間が少なくなるので、結果として、自由に使える時間が少なくなり、「家で」「自分で」計画を立ててはいない」と考える生徒が増えたのではないかと推測される。

こうした比較結果から、小学生から中学生へと日常生活の時間の使い方が変化していく様子が伺える。

小学校においては、児童がスムーズに中学校に進学できるよう、物事を計画的に進めていく力や時間を上手に使って生活する力を身に付させておくことが望まれる。

＜参 考＞

【質問32】 学習塾（家庭教師の先生に教わっている場合も含みます。）で、どのような内容の勉強をしていますか。



【中学生という発達段階からみられること】

3年前（小学校5年時）と比較して、望ましい回答の割合が減った質問に、「難しいことも挑戦する」（-11.7ポイント）、「将来の夢や目標を持っている」（-12.4ポイント）も挙げられる。

このことは、中学校2年という学年が、進路選択を1年後に控えた時期であり、取り組むことの難易度や具体性が増してきていることが、結果となって表れたと推測できる。

【3年前から安定して定着していること】

望ましい回答の割合が、小学校5年・中学校2年ともに80%を超えている質問は4項目ある。

そのうち、「朝食を毎日食べている」と回答した児童生徒は、3年前(小学校5年時)で88.1%、今年度(中学校2年時)で85.7%と、かなり高い割合である。家庭においても、規則正しい生活習慣の大切さを理解し、心身ともに健やかな子どもの育成に向けて学校と協力して取り組んでいることが伺える。

他の3項目は、規範意識を示すものである（「近所の人にあいさつする」「困っている人を助ける」「学校の規則を守る」）。望ましい回答の割合が、3年前(小学校5年時)・今年度(中学校2年時)ともにそれぞれ90%前後であることから、各小・中学校において、積極的な生徒指導に継続して取り組んでいることが伺われる。

今後も、「小・中一貫」の視点に立って、小学校と中学校が協働して系統的・継続的に教育活動を行うことにより、確かな学力の向上やいわゆる「中1ギャップ」の緩和に効果が期待できると考える。